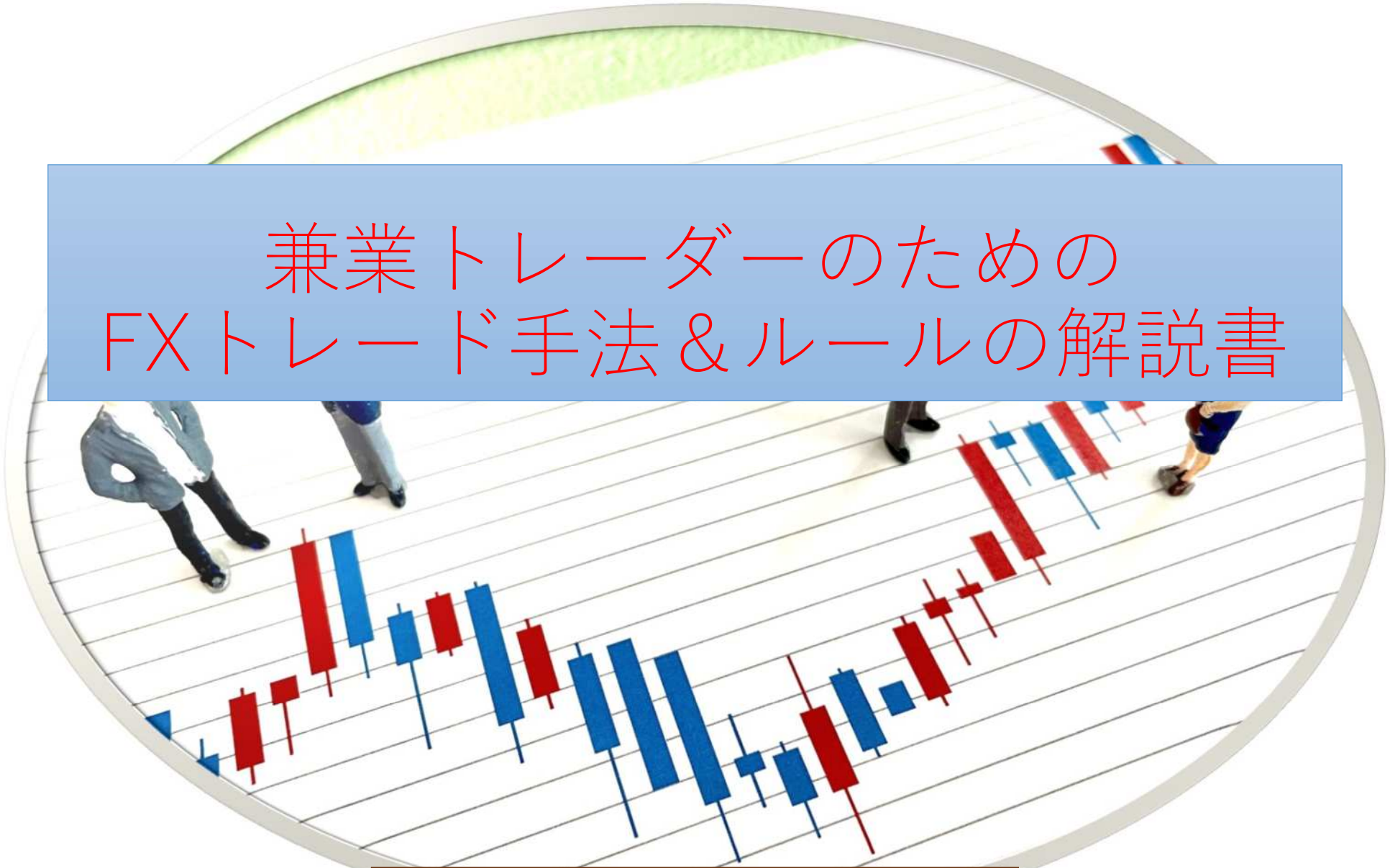




兼業トレーダーのための FXトレード手法&ルールの解説書

著作者：合同会社ハービックス

利用規約

第1条 禁止行為について

1.1 本解説書の内容は、無断で第三者に公開・複製することを固く禁じます。本解説書の著作権は著作者に帰属します。

第2条 違反に対する損害賠償

2.1 本利用規定に違反した場合、著作者は違反者に対して損害賠償請求権を行使する権利を有します。

2.2 違反によって生じた一切の損害に対する責任は違反者が負担します。これには著作者の法的費用も含まれます。

第3条 取引の自己責任

3.1 FX 取引はリスクがあります。本解説書の情報は一般的な内容であり、確実な投資助言を提供するものではありません。

3.2 本参考書の情報に基づいて行われる取引は、すべて取引者の自己責任で行われます。著作者は、取引の結果に対して一切の責任を負いません。

第4条 利用規定の変更

4.1 著作者は、利用規定を変更する権利を保持しています。変更は利用者の承諾なく随時変更、改定をおこなうことができるものとし、利用者はこれを承諾するものとします。

第5条 合意

5.1 本解説書を利用することは、本利用規定に同意することを意味します。

目次

はじめに	1
(1) ごあいさつ	1
(2) 解説書の対象者	1
1. 基本事項	2
(1) 基本的な戦略	2
(2) トレンドの見方	3
2. トレードスタイル	4
(1) トレード通貨ペア	4
(2) トレード時間軸	5
(3) トレードスタイル	6
3. 押し目買い・戻り売りの手法&ルール	7
(1) 押し目買い（戻り売り）の手順	7
(2) 手法&ルールの詳細	8
(3) 資金管理	15
(4) まとめ	16
4. ケーススタディ	17
(1) ケーススタディとは	17
(2) 留意点	17
(3) 解説パターン	17
(4) トレード例	17
5. トレーニング&検証方法	24
(1) トレーニングとその環境	24
(2) その他に重要な点	24
おわりに	25

はじめに

(1)ごあいさつ

- ・この解説書を手に取って頂きありがとうございます。FXをはじめたものの、なかなか勝てずにいる方に向けてこの解説書を作成しました。私ははじめの3年間は勝てない日々が続きました。安定して勝てるようになった今だからこそ、当時はなぜ勝てなかったのか、勝つためにはどうすればよいのかがわかるのです。
- ・これらの経験を踏まえて、勝つための手法をみなさまに解説します。ぜひ一人でも多くの方に「FXで勝つとはどのようなことが必要か？」を理解して頂きたいと思います。

(2)解説書の対象者

- ・本解説書は以下の条件に当てはまる方を対象としています。
 - ❑ FXを1年以上やっている（さらに勉強もしている）が勝てるようになれない人。どうすれば勝てるようになるのかわけが分からない状態になっている人。
 - ❑ これからもトレードを継続してできる人。勝つまであきらめない人。
 - ❑ スイングトレードなどゆったりとした方法をとれる人。急がずに着実に勝てる道を選ぶ人。（スキャルピングトレードなど短期間で一気に資金を増やす方法は解説の対象とはしておりません。）
- ・上記を条件としているのは理由があります。FXは勉強してもほとんどの人が勝てない世界です（逆にだれでも勝てるのであれば、サラリーマンなんて存在しません）。勝つにはFXの常識と呼ばれることに対して逆に行く必要があります。

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| (FXの常識の例) | (本解説書での推奨方法) |
| ✓ 損切りは早く | → 損切りは極力しない |
| ✓ リスクリワード比は損失1：利益2とする | → リスクリワードは気にしない |
| ✓ ナンピンはしない | → 計画的にナンピンする |

・まずは上記のFXの常識を守り続け、勝てない経験をした人でなければこの解説書は理解できません。だからこそ上記の条件を設けております。また、解説書を理解してから、さらに継続したトレードの練習が必要です。これからさらに1年は見込んでください。

では、条件に当てはまる方に向けて、さっそく次のページから解説をはじめます。

1. 基本事項

(1) 基本的な戦略

- ・押し目買い（ロングエントリー）・戻り売り（ショートエントリー）を狙います。押し目買いは上昇トレンド中の一時的な下落で買うこと、戻り売りは下降トレンド中の一時的な上昇で売ることの意味します（図-1.1参照）。
- ・上昇トレンド中の高値でロングすること、下落トレンド中の安値でショートすることは絶対にやりません。FXはレンジを形成する値動きが多く、これだとエントリー後に大きく逆行する場合があります。**必ず押し目・戻り目を狙ってください。**
- ・**エントリーは指値注文とします。**基本的に成行注文はやりません。成行注文は飛びつきエントリーをやっている可能性が高く、勝っても大きな値幅をとることができません。

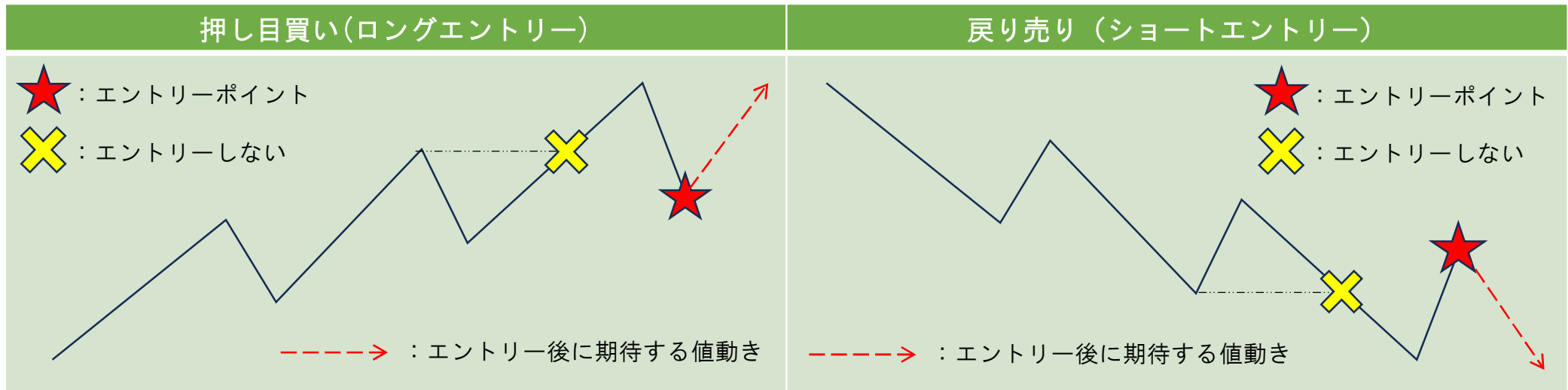


図-1.1 押し目買い・戻り売りの形

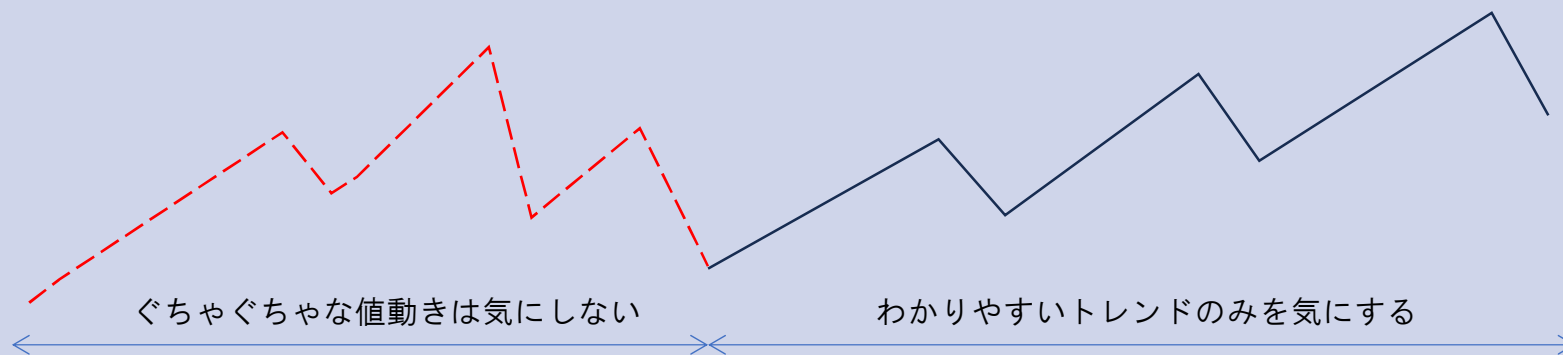
- ・1年以上のトレード経験者であれば疑問がわくと思いますが、押し目・戻りはどこまで進むかわからないため、どこでエントリーするのがよいか？ が気になると思います（ここが押し目買い・戻り売りの永遠の課題です）。
- ・私のトレードテクニックは**押し目・戻りが終わりそうな複数のポイントで、分割&ポジションサイズを調整した指値注文**をおこなうことにあります。

1. 基本事項

(2)トレンドの見方

- ・FXで発生するトレンドは、チャートのどの部分を切り取るかで考え方が異なります(図-1.2参照)。
- ・例えば、大きな上昇トレンド中の下降トレンド、逆に大きな下落トレンド中の上昇トレンドといった具合です。
- ・狙うべきものは直近のトレンドとし、それよりも前の値動きはあまり気にしないようにしてください。

上昇トレンドの把握方法



実際のチャート



図-1.2 チャートの切り取り

2. トレードスタイル

(1) トレード通貨ペア

・この解説書で紹介する手法はトレーダーの心理を活かしたエントリー・決済(利確・損切)のルールであり、なるべくトレード参加者が多い通貨ペアの方が良く機能します。したがって、世界の基軸通貨である米ドル(USD)は取引量が最も多く有利となります(図-2.1参照)。この資料には記載しませんが、米ドルが絡んだ通貨ペアはアメリカの指標発表で大きく動きやすく、利益を得るタイミングがわかりやすいのが特徴です。

・また、日本人の自国通貨である円(JPY)もなじみやすく取引対象としています。ちなみに、USD/JPYは世界で第2位の取引金額シェアを有する人気の通貨ペアです。

・私はFXの場合は図-2.2に示す9通貨ペアでトレードしています。ちなみに、通貨ペア以外には、金(GOLD)やビットコイン(BTC)のトレードもやります。

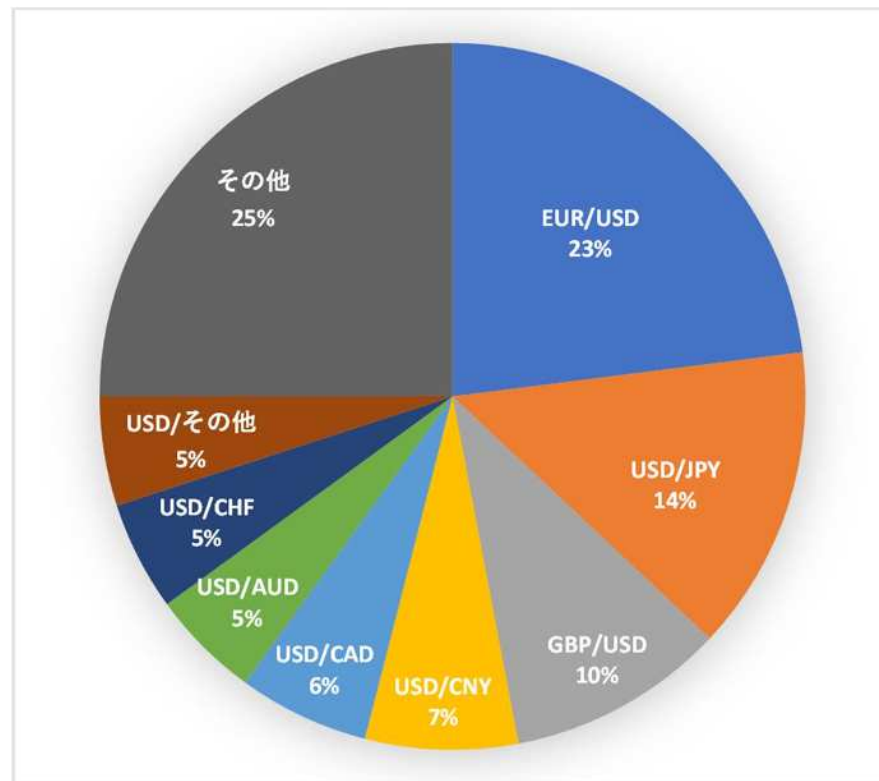


図-2.1 通貨ペア別取引金額のシェア(2022年)

・ 基軸通貨のUSD関連は取引量が
多くテクニカルが効きやすい
・ ファンダメンタル情報の時間
帯がわかりやすい

・ JPYは日本の通貨のためな
じみやすい(金額の計算もや
りやすい)

USD関連	JPY関連
①USD/JPY	①USD/JPY
②EUR/USD	⑦EUR/JPY
③GBP/USD	⑧GBP/JPY
④AUD/USD	⑨AUD/JPY
⑤CAD/USD	
⑥CHF/USD	

図-2.2 お勧め取引通貨ペア例

2. トレードスタイル

(2) トレード時間軸

・私は1～4時間足を基本にしたスイングトレード(※1)(表-2.1参照)をスタイルとしています。理由は以下の通りです。

- ①トレンドの捉えやすさ：1～4時間足のチャートは短期のノイズや価格の乱高下が少ないため、トレンドを見つけやすいです。そのため、ロングすべきかショートすべきか、もしくは手を出すべきでない状況かがわかりやすいです。
- ②意思決定の余裕：1～4時間足では価格の変動が速すぎず、トレードの意思決定(ポジション管理)の時間が十分に確保できます。急激な変動に対応する必要がなく、冷静に分析やエントリーポイントの設定ができます。
- ③ストレスの軽減：短期足でのトレードは精神的なストレスを引き起こすことが多い一方、1～4時間足では値動きが相対的に緩やかであるため、トレーダーのストレスを軽減できます。
- ④仕事や日常生活との両立：1～4時間足のトレードは、日中に仕事や他の活動をしている兼業トレーダーに適しています。長期足と比べてチャートを頻繁にチェックする必要がなく、生活とのバランスを取りやすいです。
- ⑤長期的なトレンドの捉え：1～4時間足では中長期のトレンドを追跡するのが容易です。このようなトレードスタイルを採用することで、長期的な利益を狙うことができます。

表-2.1 保有時間でみたトレード名称

トレードスタイル	保有期間	目安	利益を得るポイント
長期トレード	長期	数週間～1年	為替差益、スワップポイント
スイングトレード ※1	中期	2日～数週間	為替差益、スワップポイント
デイトレード	短期	1日以内	為替差益
スキャルピング	一瞬	数秒～数分	為替差益

2. トレードスタイル

(3) トレードスタイル

・この解説書のルールによるトレードスタイルを表-2.2に示します。解説書を深く理解するほど記載の内容に近づくはず
です。

表-2.2 トレードスタイル

項目	内容	備考
取引通貨ペア	USD ・JPY関連	・前述したとおりのUSD・JPY絡みの通貨ペアとします。 ・流動性が大きく機能しやすいこと、情報が入りやすいことが特徴です。
チャート 時間軸	1～4時間足	・トレンドの認識もエントリーも1～4時間足のみとします。 ・マルチタイムフレーム分析などと言って日足・週足まで時間軸を広げてチャートを見ると、頭が混乱して戦略がぶれます。また、これよりも時間が短い15分足・30分足では急な値動きに翻弄されやすいです。
トレード方法	押し目買い ・戻り売り	・トレンドを把握し、レンジブレイクからの押し目買い・戻り売りを基本とします。 (詳細は以降で紹介します。)
トレード回数	10回/月程度	・取引通貨ペア9銘柄で、エントリーしてから決済までの取引回数は月平均で10回程度となります。 ・トレンドと値動きからチャンスがある通貨ペアに集中して、何回もトレードすることになります。逆にチャンスがない通貨ペアは半年間トレードしないなど普通にあります。
ポジション 保有時間	数時間～ 2週間 (2～3日程度 が多い)	・エントリーしてから決済までの保有時間は、短くて数時間、長くて2週間程度となります。 ・保有時間は2～3日程度(値動きが緩やかな場合)が最も多く、数時間(値動きが急な場合)が次に多いです。 ・ある程度トレードに慣れてくると、2週間くらいを保有することができます。ここま でくると最大のポジションサイズまで保有していることが多く、決済までを耐えた分だけ大きな利益をとることができます。
利益率	月10%程度	・損切になる確率を極力少なくしたトレード手法です(損切りは100回トレードして1回 程度になるように工夫)。証拠金に対して10%程度の利益率を目標としています。月に証 拠金を2倍・3倍…を目標とするトレード手法ではありません。

3. 押し目買い・戻り売りの手法&ルール

(1)押し目買い(戻り売り)の手順

・押し目買いは以下の手順をとります(図-3.1参照)。

なお、戻り売りの場合は価格の上下が逆になるだけで、基本的な考え方は同じです。

A. トрендとレンジの認識

・ここでのレンジは2回以上反発した価格帯を指します。この価格をサポートライン・レジスタンスラインと認識します。

B. レンジブレイクの認識

・Aのレンジがブレイクするのを待ちます。上昇トレンドの場合はレジスタンスライン(レンジ上限)を、下降トレンドの場合はサポートライン(レンジ下限)を、それぞれブレイクした方が有意性があります。

・レンジを価格が少し飛び出したからと言って、ブレイクしたと認識するのは間違いです。**レンジ帯の価格を半値以上(レンジ帯の0.618倍(フィボナッチリトレースメントの代表値)を目安)を超えて、はじめてレンジブレイクしたと認識します。**

C. 指値注文

・Bのレンジブレイクを認識して、指値注文します。指値注文は押し目での反発しやすい価格帯に分散します。

D. 注文執行待ち

・これ以降は注文が執行されるのを待ちます。

E. ポジション管理

・ポジションを持った後の値動きによる対応です。

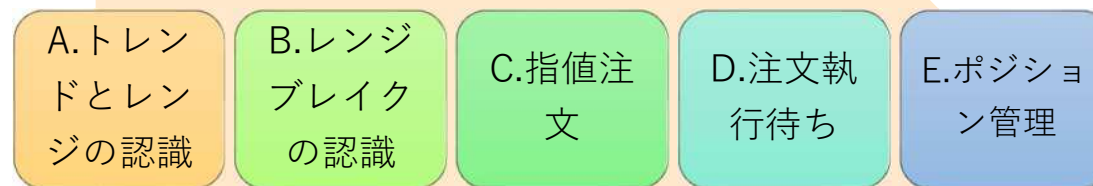


図-3.1 押し目買いの手順

3. 押し目買い・戻り売りの手法&ルール

(2) 手法&ルールの詳細

- ・ 前述した手順の詳細を解説します。

A. トrendとレンジの認識

- ・ ここでのレンジは2回以上反発した価格帯を指します。この価格をサポートライン・レジスタンスラインと認識します。

[解説]

- ・ 1回しか止められていない価格帯はサポレジラインとは認識しません。この場合は他のトレーダーのただの利確ポイントの可能性が高く、ポジションを保有した起点とは考えにくいからです。

B. レンジブレイクの認識

- ・ Aのレンジがブレイクするのを待ちます。上昇トレンドの場合はレジスタンスライン(レンジ上限)を、下降トレンドの場合はサポートライン(レンジ下限)を、それぞれブレイクした方が有意性があります。

- ・ レンジを価格が少し飛び出したからと言って、ブレイクしたと認識するのは間違いです。レンジ帯の価格を半値以上(レンジ帯の0.618倍を活用)して、はじめてレンジブレイクしたと認識します。

[解説]

- ・ レンジ値幅Xのブレイクが半値以下の場合には、ダマシとなりレンジ内に戻る可能性が高いです。そのため、半値以上(レンジ帯の0.618倍以上)をレンジブレイクと判断します。

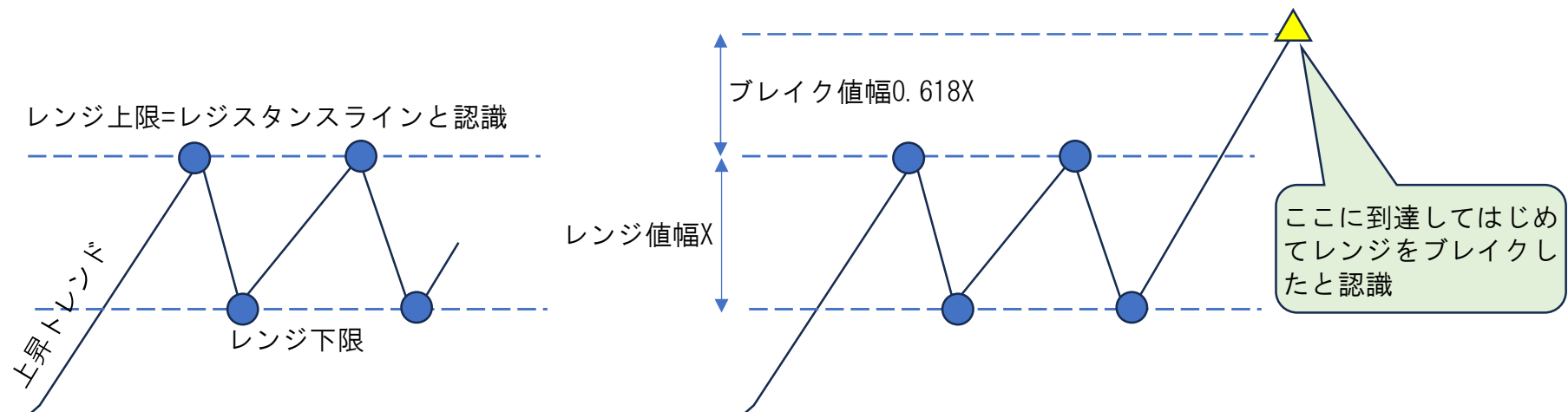


図-3.2(1) 押し目買いの手順解説(左:手順A, 右:手順B)

3. 押し目買い・戻り売りの手法&ルール

C. 指値注文

・Bのレンジブレイクを認識して、指値注文します。指値注文は押し目での反発しやすい複数の価格帯とします。

[指値注文の価格帯]

・以下の3つの価格帯で指値注文(ロングポジション)を入れます。

EP1: レンジ上限 EP2: レンジ下限 EP3: レンジ下限より値幅0.618X(もしくは0.236X)

[解説]

・EP1: レンジ内でのレジスタンスラインが、ブレイク後はサポートラインとして機能することを期待する価格帯です。

(要はショートポジションの保有者が手放す(買い戻す)価格帯)

・EP2: レンジ下限は他のトレーダーが「この価格は割らせまい!」と意図があったため、再度上昇することを期待した価格帯です。

・EP3: レンジブレイク後に逆張りでショートポジションを保有したトレーダーが利確する(買い戻す)価格帯です。ちなみに0.236Xの価格帯も反発することもあります。

・なぜ複数の価格帯でエントリーするのか? →例えばEP1でエントリーされても、そのまま反発することなく下がることもあります。ここで、EP2で指値注文していないと、損失が膨らむだけで不安が募ります。一方で、EP2・EP3まで下がることを想定したトレードをすることで、予想と反して逆行してもあわてないトレードが可能となります。要はEP2とEP3で計画的にナンピンするということです。

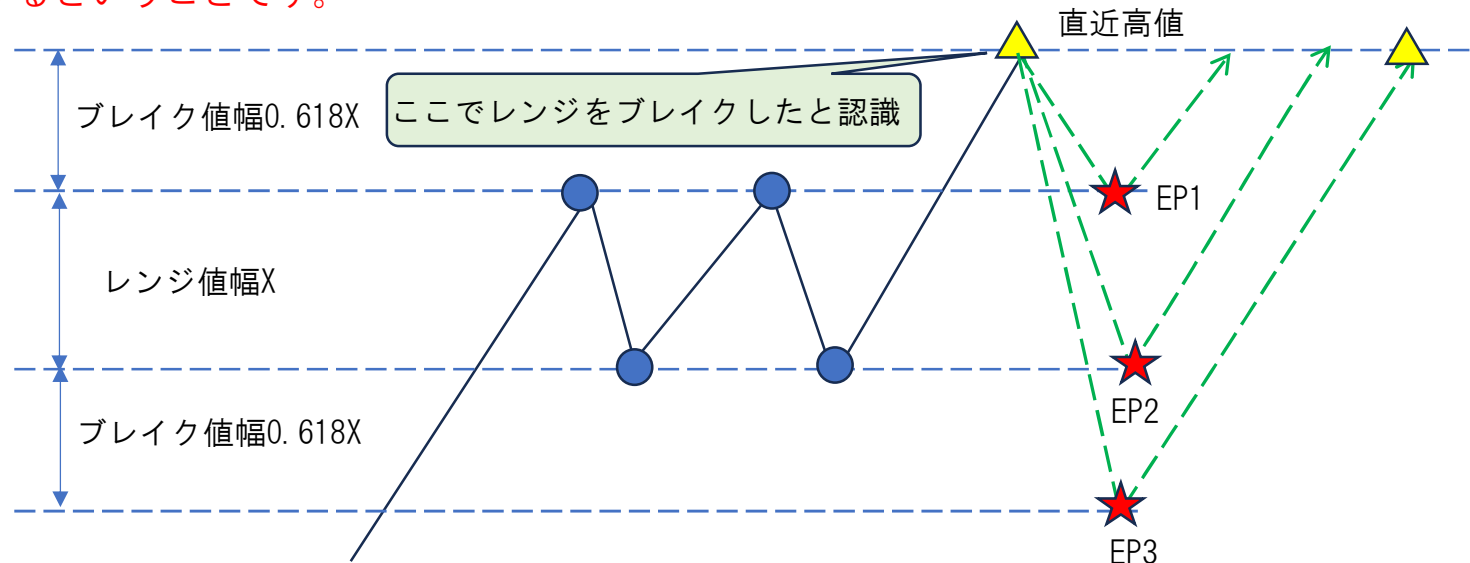


図-3.2(2) 押し目買いの手順解説(手順C)

3. 押し目買い・戻り売りの手法&ルール

[ポジションの大きさ]

・ポジションは下の価格帯になるほど大きく保有します。以下の倍率を基本とします。

EP1：ポジション1倍 EP2：ポジション2倍 EP3：ポジション3倍

[解説]

・例えば、EP1で1,000通貨でエントリーする場合は、EP2で2,000通貨、EP3で3,000通貨でエントリーします。はじめて試す場合は、上記の通りEP1で1,000通貨でやってみてください。その後に慣れてきましたら、徐々にポジションサイズを大きくしてみてください。

・なぜ下の価格帯の方がポジションサイズを大きくするのか？→ナンピンするごとに、平均購入単価をより下げることが目的です。EP2でエントリーされる頃には、EP1で保有したロングポジションはある程度損失が発生しています。EP3でエントリーされる頃には、EP1およびEP2でのポジションが結構な損失となっているはずです。しかし、あとで保有するポジションサイズが大きければ、ある程度反発しただけで、一気に含み損が解消され利益が出ます。このことを繰り返し経験することで、やがて手法に確信が持て、めったに負けないトレードが可能となります。

[利確ポイント]

・直近高値(スプレッドを考慮するとこれよりもやや低い価格帯)とします。

[解説]

・直近高値以上を欲張ることはしません。直近高値以上を狙う場合にはどこを利確のポイントとするかルールを決めることが難しくなります。わかりやすいルールを継続することが安定して勝つ近道です。

・以上、[C. 指値注文]をまとめると表-3.1の通りとなります。（損切りポイントは後述します。）

表-3.1 エントリーポイントと注文条件

エントリー ポイント	価格帯	ポジション サイズ	利確ポイント
EP1	レンジ上限	1倍(はじめは1,000通貨)	直近高値
EP2	レンジ下限	2倍(2,000通貨)	直近高値 もしくはEP1
EP3	レンジ下限より0.618X (X：レンジ値幅)	3倍(3,000通貨)	直近高値 もしくはEP1かEP2

3. 押し目買い・戻り売りの手法&ルール

D. 注文執行待ち

・これ以降は注文が執行されるのを待ちます。解説したように、C. 指値注文は、B. レンジブレイクの認識ができた後に済ませておきます。したがって、注文をすればEP1が執行されるまで（もしくは直近高値を超えてあきらめるまで）やることはありません。

[解説]

・待つ際の心構えを解説します。急落してEP1が執行されることもありますが高値をウヨウヨとさまようことが多いです。しかし、繰り返しますが、EP1に到達するまでに成行注文でロングしてはいけません。もちろんそれで勝つこともありますが、利確ポイントを直近高値としている以上は、EP1でエントリーしなくては大きな値幅を取れる可能性が小さいです。

①直近高値以下の動きであれば、ある程度の時間が経ってもチャンスがあります。いつまでもエントリーされないなと思っていたら、急にEP1に到達し、その後に急に直近高値まで到達し、利確されるケースもよくあります。

②直近高値を大きく超えた場合には、EP1～EP3の指値注文を外します。（勘が良い人ならお気づきかもしれませんが、今度は直近高値がその後のEP1になる可能性があります。）

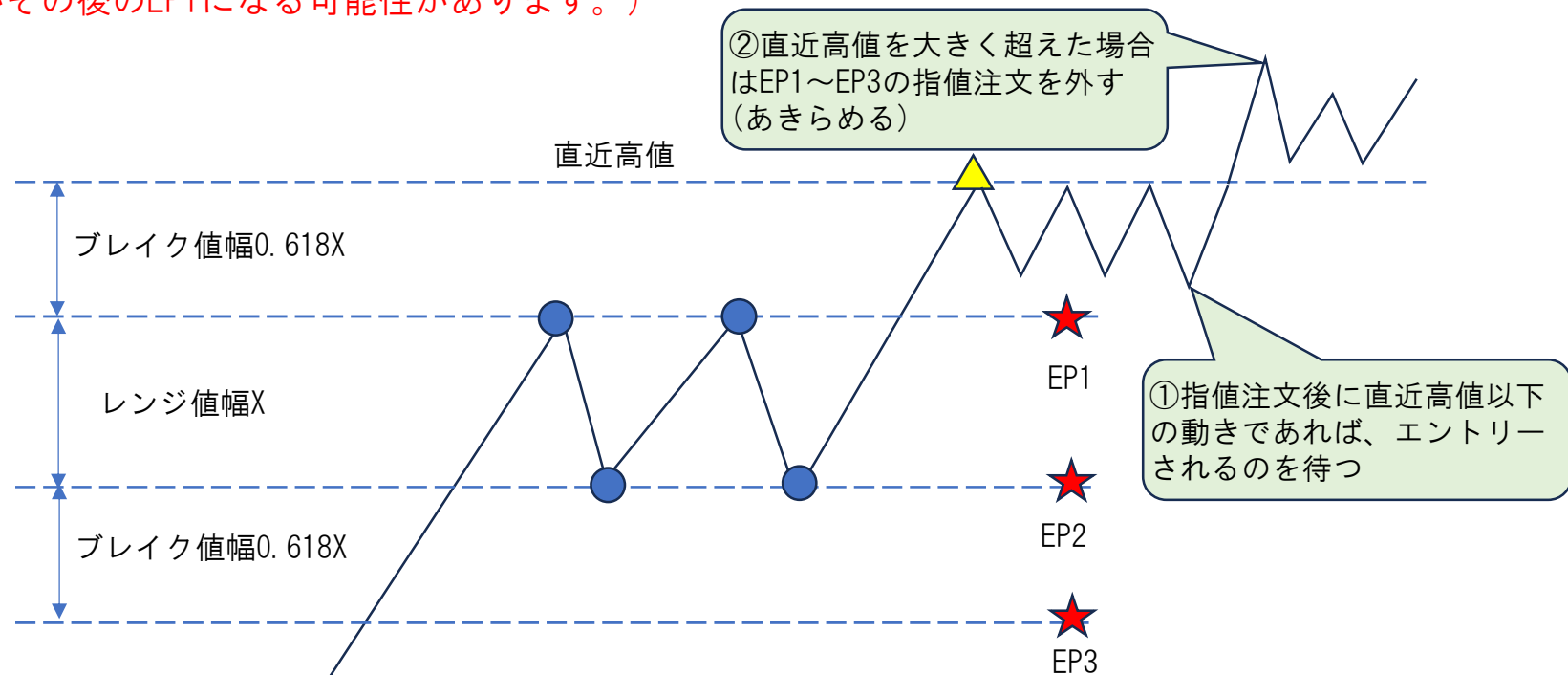


図-3.2(3) 押し目買いの手順解説(手順D)

3. 押し目買い・戻り売りの手法&ルール

E. ポジション管理

- ・ポジションを持った後の値動きによる対応です。

[EP1を保有している場合]

- ・利確ポイントである直近高値までおとなしく待ちます。

[EP2(およびEP1)を保有している場合]

- ・この場合は以下の2ケースの決済が考えられます。

①急反発する場合

- ・FXではある価格帯から急反発することが多いです。ここではEP2にて急反発し、直近高値まで到達することを期待します。そのため、当面の利確ポイントは直近高値です。

②水平に動く場合

- ・EP2付近にて水平にダラダラと続く場合には急反発することは期待できません。その場合はEP1にてすべてのポジションを決済します。利確ポイントをEP1に変更します。

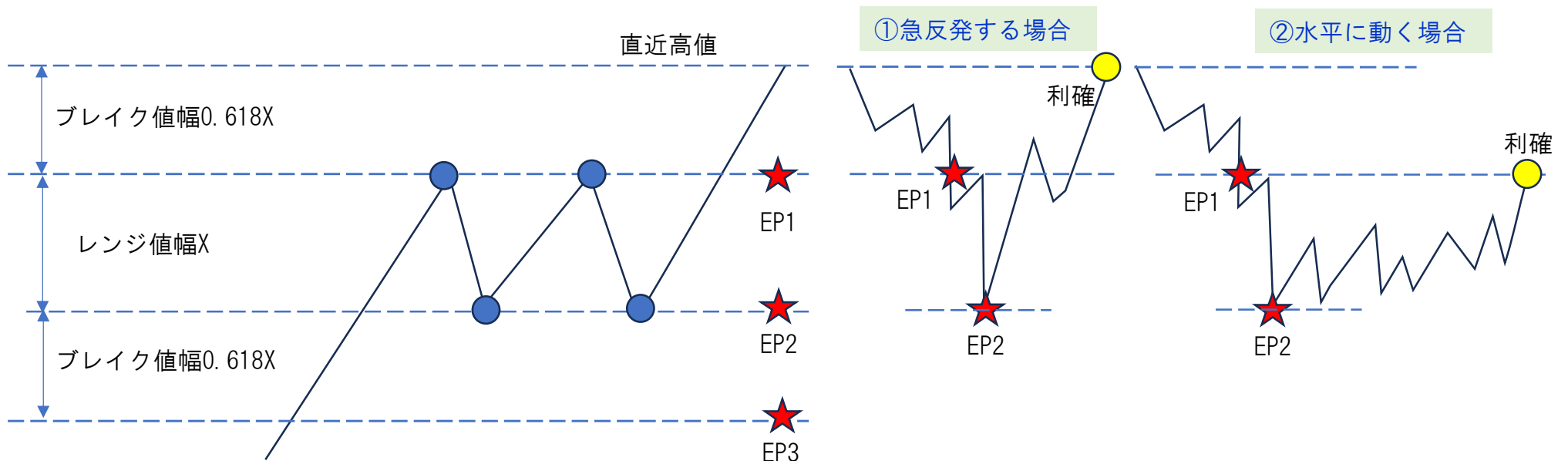


図-3.2(4) 押し目買いの手順解説(手順E)

3. 押し目買い・戻り売りの手法&ルール

[EP3(およびEP1・EP2)を保有している場合]

・この場合も以下の2ケースの決済が考えられます。

①急反発する場合

・EP2と同じようにEP3も急反発することが多い価格帯です。やはり直近高値まで到達することを期待します。利確ポイントは直近高値です。紹介した中で最も利益が多いケースとなります。

②水平に動く場合

・EP2と同様にEP3付近にて水平にダラダラと続く場合には急反発することは期待できません。ただし、一度はEP2に到達する動きを見せることが多いです。そのため、ポジションの利確ポイントをEP2に変更します。

<補足>

・はじめはポジションをもってからの値動きに一喜一憂することが多く、早くポジションを手放したくなることが多いです。ただし、ルールに従っている以上は利益になる可能性が高いです(逆に損切りする可能性は低い)。ここは忍耐強く待つことが求められます。スイングトレードでは2週間くらい待つことで大きな利益をとることができます。

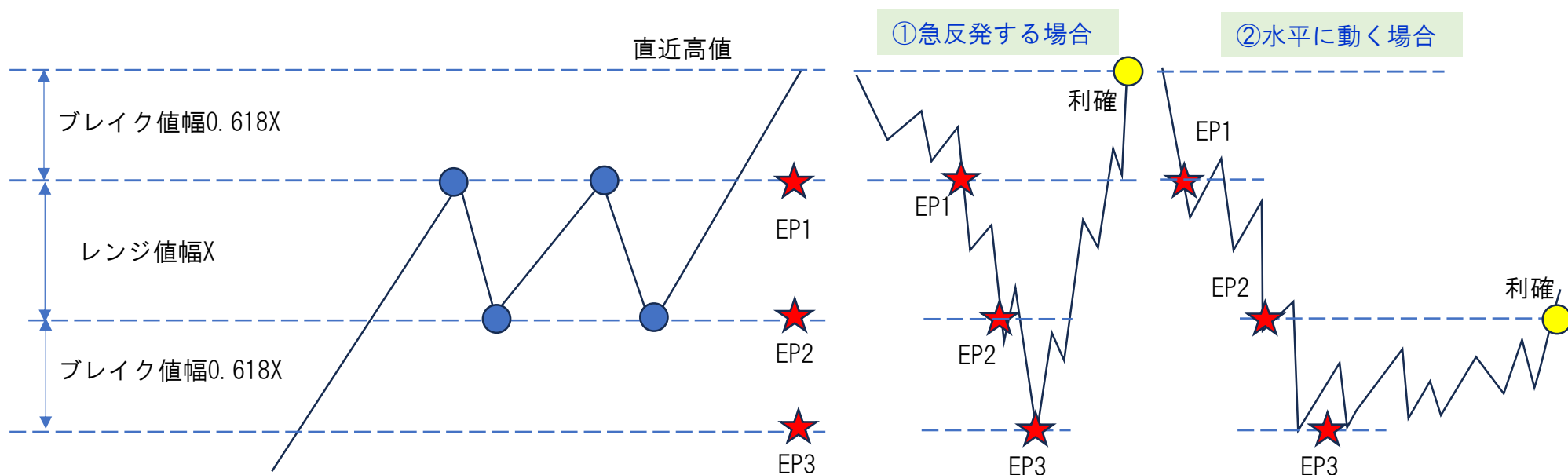


図-3.2(5) 押し目買いの手順解説(手順E)

3. 押し目買い・戻り売りの手法&ルール

[損切り注文/損切りする場合]

- ・ 指値注文によるエントリー時に、利確注文と併せて損切り注文も入れておきます。ただし、損切り注文は、基本的に引っかかることは無いだろうというくらいに離れた価格帯に設定します。(リスクリワード比など気にしません。ドル円だとEP3から100pips以上を離します。)
- ・ 実際の損切りは、EP3がエントリーされてから逆方向に優位性が出た場合(図-3.2(6)では下限を大きくブレイクした場合)に心を決めます。このときにブレイクした安値で慌てて損切りしてはいけません。あくまで一時的に戻った価格帯で損切りします。EP3もしくはEP2がおすすめです。
- ・ 上記の一時的な戻りは直前でショートしたトレーダーが利確するために発生します。この動きを待つのがポイントです。

[補足]

- ・ EP3を下回って、エントリー時の損切り注文に引っかかる場合は最悪の事態ですが、これはあきらめます。感覚ですが、100回くらいトレードすれば1回くらいはこのような事態になります(1年に1回もないくらい)。ただし、他の99回の利益は1回の最悪の損失を軽く上回ることができるため、トータルで勝ち越すことができるのです。

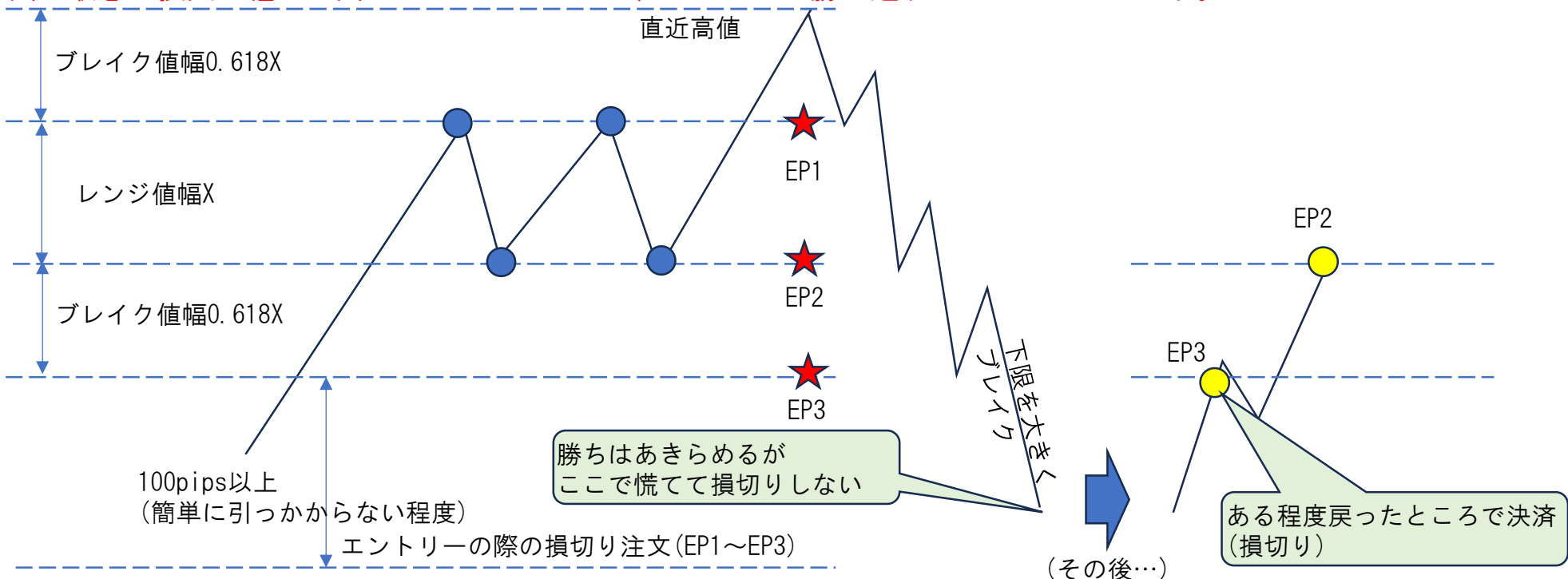


図-3.2(6) 押し目買いの手順解説(損切り)

3. 押し目買い・戻り売りの手法&ルール

(3) 資金管理

・解説したトレード手法を用いて、はじめは証拠金10万円、1ロット=1,000通貨からスタートするのが良いと思います。
・USD/JPYでトレードして、EP1=1ロット、EP2=2ロット、EP3=3ロットで合計6ロット(6,000通貨)を保有した場合に、1ドル=150円(2023年10月)で計算したとして、90万円のトレードとなります。証拠金10万円であればレバレッジは9倍のため、国内業者(2023年10月で最大25倍)でもトレードすることが可能となります。

・ただ、チャンスがあれば2通貨ペア・3通貨ペアと同時にトレードしたいところです。その場合は、海外業者を選択することになります。ちなみに私は「XM Trading」を使用しています。現在(2023年11月)のところ、XM Tradingは全く問題なく使えています。ゼロカットシステムのため、証拠金以上の損失が発生することではなく、注文の価格が不利にすべるということはありません。

・はじめは小さいロットからはじめますが、1か月の収支がプラスになっていけば、翌月はロット数を2倍にあげていきます。1か月目1,000通貨、2か月目2,000通貨、3か月目4,000通貨と3か月くらいを連続して勝ち続けるころにはこの手法で手ごたえを得られていると思います。(もし、収支がマイナスだった場合は、無理にロットサイズを上げるのではなく、据え置き通貨もしくは1,000通貨からやり直すことをお勧めします。)

・さらに、4か月目8,000通貨、5か月目で16,000通貨…となればこの時点で資金が2倍になっていると思われます。本解説書による学びはここで卒業です。

なぜなら、資金を2倍にできるトレーダーは一部の勝ち組であり、十分な実力を有しているからです。

そのため、なんとか資金を2倍にできるまでトレードを継続してみてください。



3. 押し目買い・戻り売りの手法&ルール

(4)まとめ

・押し目買い・戻り売りの手法&ルールをまとめると以下の通りです。

①手法&ルール

- ✓ 最低2回以上は止められた価格帯をレンジと認識する。レンジのブレイクはレンジ幅から0.618倍以上を進んだ場合を指す。
- ✓ レンジのブレイクを認識してから、押し目・戻りができることを期待して指値注文を入れる。指値注文は、反発しやすい箇所にて複数分散して入れる。反発しやすい箇所は、レンジの上限(EP1)、レンジの下限(EP2)、レンジ下限から0.618倍(EP3)がおすすめ。
- ✓ 指値注文のポジションサイズは、 $EP1 < EP2 < EP3$ と、あとにエントリーされるほど大きくとるようにする。
- ✓ EP3を大きく下回った場合は損切りを検討する。ただし、慌てた損切りはせずに、ある程度を戻った価格帯で損切りする。(実際に、EP3を下回るほどの値動きであれば、その後大きく戻すことが多い。)
- ✓ 損切りになる確率は低いものの、その場合の損失金額は大きいものになる(これは仕方ない)。そのため、多くのトレードで利確できる金額が、わずか1回で大きく損切りされる金額を、必ず上回るようにする。

②メンタル面の解説

- ✓ 押し目買い・戻り売りはトレードの基本と言われ、多くの書籍で解説がなされている。ただし、これに従っても勝てないトレーダーがほとんどである。
- ✓ その理由は、押し目・戻りはどこまで進むかわからないはずなのに、「予想と違った場合には損切りすべき」と言われ、これを守ってしまうことになる(FXの常識を従うと負ける)。
- ✓ 本解説書での手法は複数のポイントにてエントリーすること、あとでエントリーするほどポジションサイズを大きくとることにより、少し戻しただけで利益を残せるトレードスタイルである。これにより、押し目・戻りが予想と異なり大きく進んだ場合でも落ち着いていられる。

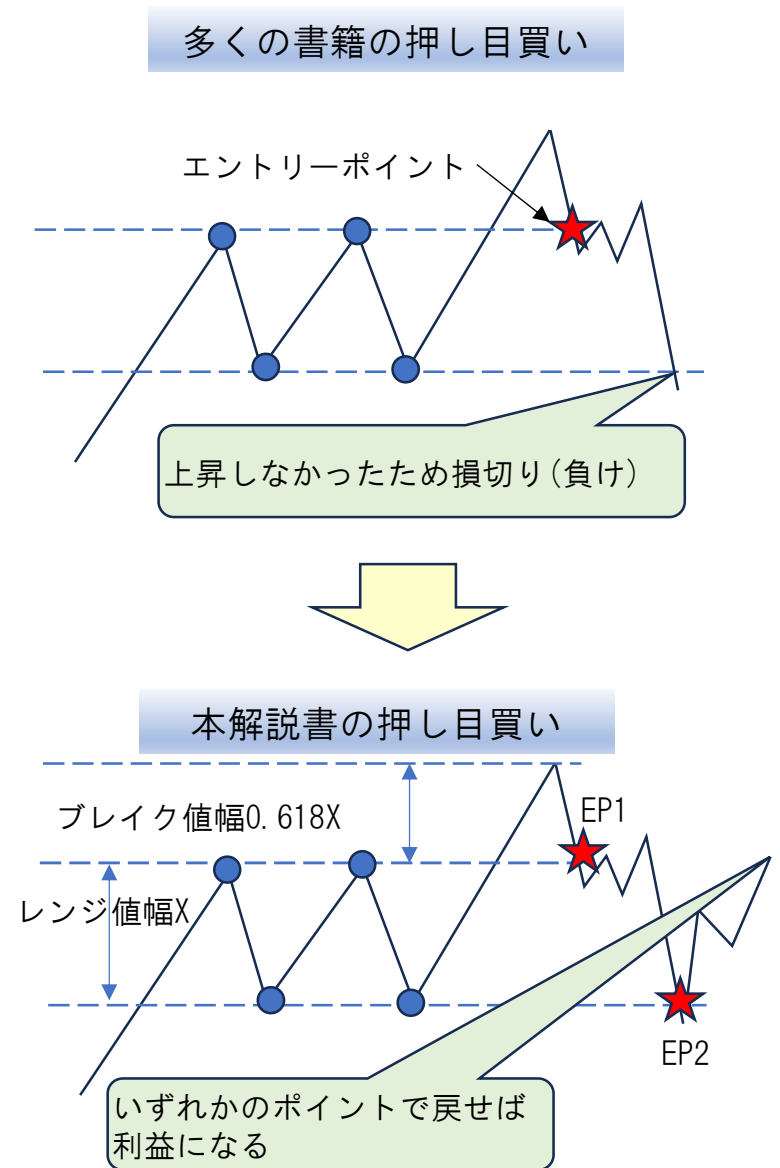


図-3.3 手法のまとめ

4. ケーススタディ

(1) ケーススタディ

- ・ ケーススタディとは、特定の事例や状況に焦点を当て、調査や分析を行うことを意味します。ここまで、押し目買い・戻り売りの方法を解説しました。ただし、実際のローソク足チャートからチャンスを探すことは慣れるまで難しいと思います。しかし、ここで挫折して欲しくありません。
- ・ ここでは、実際のチャートからチャンスを見つけ、トレードする際の考えを解説します。

(2) 留意点

- ・ 実際のローソク足チャートはきれいなレンジを形成することはありません。ある程度は値幅からはみ出ることもあります。はじめはレンジの認識も難しいものです。また、値動きしている時間帯も気にする必要があります。
- ・ 以上を文章で説明するのは難しいです。ここは実際に訓練して慣れるしかありません。チャートを見続けて、トレードを重ねて検証を積み上げる必要があります。
- ・ これは、野球のバッティングと同じです。説明を受けただけで打撃方法を学ぶことは不可能であり、素振りによる日々の練習や、実際にバッターボックスに立ちピッチャーと対戦することを繰り返すことでしか強打者になる道はありません。
- ・ 私の場合は3年かかりました。皆様ももしかしたら同じくらいかかるかもしれません。はじめのうちは、このケーススタディに当てはまる場面を見つけてトレードしてください。その過程で、だんだんと勝てる方法がわかってくるはずです。

(3) 解説パターン

- ・ 繰り返しですが、本解説書のパターンは図-3.1の通りです。ケーススタディではこの中で、E. ポジション管理は省略して解説します。

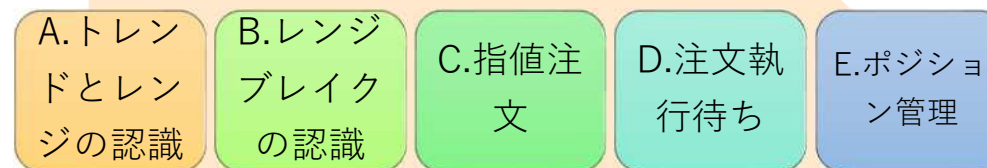


図-3.1 押し目買いの手順(再掲)

(4) トレード例

- ・ 次のページから、トレード例を12ケース（押し目買い6ケース、戻り売り6ケース）説明します。

4. ケーススタディ

① 戻り売りの例

- ・ 下落トレンドの途中でレンジ(182.59~184.30)を形成する。
- ・ 2回以上止められたレンジ下限を下抜けして、レンジ幅の0.618倍(181.52)へ到達する。
- ・ 指値ショート注文をEP1:182.59、EP2:184.30に入れておく。



- ・ 戻りを形成しEP1:182.59に到達し、エントリーされる。

- ・ 直近安値に到達して利確がされる[終了]。



図-4.1(1) 戻り売り例(GBP/JPY 2023.9.20~10.3)

- ・ 下落トレンドの途中でレンジ(1.0698~1.0767)を形成する。
- ・ 2回以上止められたレンジ下限を下抜けして、レンジ幅の0.618倍(1.0652)へ到達する。
- ・ 指値ショート注文をEP1:1.0698、EP2:1.0767に入れておく。



- ・ 戻りを形成しEP1:1.0698に到達し、エントリーされる。

- ・ 直近安値に到達して利確がされる[終了]。



図-4.1(2) 戻り売り例(EUR/USD 2023.9.14~9.21)

4. ケーススタディ

- ・下落トレンドの途中でレンジ(1. 0928~1. 1045)を形成する。
- ・2回以上止められたレンジ下限を下抜けして、レンジ幅の0. 618倍(1. 0854)へ到達する。
- ・指値ショート注文をEP1: 1. 0928 、EP2: 1. 1045に入れておく。



- ・戻りを形成しEP1:1. 0928に到達し、エントリーされる。



- ・直近安値に到達して利確がされる[終了]。



図-4. 1 (3) 戻り売り例(EUR/USD 2023. 7. 28~8. 22)

- ・下落トレンドの途中でレンジ(1916. 2~1929. 2)を形成
- ・2回以上止められたレンジ下限を下抜けして、レンジ幅の0. 618倍(1909. 1)へ到達
- ・指値ショート注文をEP1: 1916. 2 、EP2: 1929. 2に入れておく



- ・EP3に到達し、エントリーされる。



- ・EP2もしくはEP1で利確する[終了]。



- ・戻りを形成しEP1とEP2に到達し、エントリーされる
- ・続けて指値ロング注文をEP3: 1917. 1に入れておく

図-4. 1 (4) 戻り売り例(GOLD 2023. 9. 6~9. 21)

4. ケーススタディ

- ・下落トレンドの途中でレンジ(0.6514~0.6610)を形成する。
- ・2回以上止められたレンジ下限を下抜けして、レンジ幅の0.618倍(0.6435)へ到達する。
- ・指値ショート注文をEP1: 0.6514、EP2: 0.6610に入れておく。



- ・戻りを形成しEP1:0.6514に到達し、エントリーされる。

- ・直近安値に到達して利確がされる[終了]。



図-4.1(5) 戻り売り例(AUD/USD 2023. 8. 2~9. 5)

- ・下落トレンドの途中でレンジ(137.71~142.19)を形成する。
- ・2回以上止められたレンジ下限を下抜けして、レンジ幅の0.618倍(134.91)へ到達する。
- ・指値ショート注文をEP1: 137.71、EP2: 142.19に入れておく。



- ・戻りを形成しEP1:137.71に到達し、エントリーされる。

- ・直近安値に到達して利確がされる[終了]。



図-4.1(6) 戻り売り例(USD/JPY 2022. 11. 10~12. 20)

4. ケーススタディ

②押し目買いの例

- ・ 上昇トレンドの途中でレンジ (140.09~142.33) を形成する。
- ・ 2回以上止められたレジスタンスラインを上抜けして、レンジ幅の0.618倍 (143.79) へ到達する。
- ・ 指値ロング注文をEP1: 142.33、EP2: 140.09に入れておく。

- ・ 押し目を形成しEP1: 142.33に到達し、エントリーされる。

- ・ 直近高値に到達して利確がされる[終了]。



図-4.2(1) 押し目買い例 (EUR/JPY 2023.1.19~2.25)

- ・ 上昇トレンドの途中でレンジ (138.24~138.87) を形成する。
- ・ 2回以上止められたレンジ上限を上抜けして、レンジ幅の0.618倍 (139.27) へ到達する。
- ・ 指値ロング注文をEP1: 138.87、EP2: 138.24に入れておく。

- ・ 長いひげによる押し目を形成し、EP1: 138.87に到達し、エントリーされる。

- ・ 直近高値に到達して利確がされる[終了]。



図-4.2(2) 押し目買い例 (USD/JPY 2023.2.17~3.2)

4. ケーススタディ

- ・ 上昇トレンドの途中でレンジ(134.32~135.29)を形成する。
- ・ 2回以上止められたレンジ上限を上抜けして、レンジ幅の0.618倍(135.84)へ到達する。
- ・ 指値ロング注文をEP1: 135.29、EP2: 134.32に入れておく。

- ・ 押し目を形成しEP1: 135.29に到達し、エントリーされる。

- ・ 直近高値に到達して利確がされる[終了]。



図-4.2(3) 押し目買い例(USD/JPY 2023. 2. 17~3. 2)

- ・ 上昇トレンドの途中でレンジ(0.8896~0.8941)を形成する。
- ・ 2回以上止められたレンジ上限を上抜けして、レンジ幅の0.618倍(0.8974)へ到達する。
- ・ 指値ロング注文をEP1: 0.8941、EP2: 0.8896に入れておく。

- ・ 押し目を形成しEP1: 0.8941に到達し、エントリーされる。

- ・ 直近高値に到達して利確がされる[終了]。



図-4.2(4) 押し目買い例(USD/CHF 2023. 9. 6~9. 21)

4. ケーススタディ

- ・ 上昇トレンドの途中でレンジ(144. 67～ 146. 55)を形成する。
- ・ 2回以上止められたレンジ上限を上抜けして、レンジ幅の0. 618倍(147. 69)へ到達する。
- ・ 指値ロング注文をEP1: 146. 55、EP2: 144. 67に入れておく。

- ・ 押し目を形成しEP1:146. 55に到達し、エントリーされる。

- ・ 直近高値に到達して利確がされる[終了]。



図-4. 2(5) 押し目買い例(USD/JPY 2023. 8. 17～9. 15)

- ・ 上昇トレンドの途中でレンジ(127. 23～129. 11)を形成する。
- ・ 2回以上止められたレンジ上限を上抜けして、レンジ幅の0. 618倍(130. 22)へ到達する。
- ・ 指値ロング注文をEP:129. 11、EP2:127. 23に入れておく。

- ・ 押し目を形成しEP1:129. 11に到達し、エントリーされる。

- ・ 直近高値に到達して利確がされる[終了]。



図-4. 2(6) 押し目買い例(USD/JPY 2022. 4. 15～9. 9)

5. トレーニング&検証方法

(1) トレーニングとその環境

- ・ここまでトレード手法とルールを解説し、実際のローソク足によるケーススタディをおこないました。この後は、皆さまが実際のリアルな状況でトレードをやっていくことになります。
- ・forex testerなどの過去検証ソフトを使用しても良いのですが、私のおすすめはリアルトレードによる少額でのトレーニングです。
- ・forex testerでは日本時間の認識や曜日の感覚、指標発表タイミングが実感しずらく、リアルなトレードとは大きく異なることを感じました。また、実はリアルなトレードよりもforex testerの方が勝つトレードが難しかったです。**恐らく、時間や曜日の感覚を反映できるリアルなトレードの方が値動きのくせを扱いやすい(=利用しやすい)ものと思われます。**
- ・また、本解説書のスイングトレードであれば、ふつうのPCとモニターひとつでトレードできます。Youtubeで紹介されるプロトレーダーの取引環境でたくさんのモニターがある中をせわしなくトレードしている様子を見たことがあるかもしれませんが、そんなものは必要ありません。もしかしたらスマホひとつでも良いかもしれません。また、MAやボリンジャーバンドなどのインジケーターも必要ありません。
- ・ただし、ひとつだけ条件を付けるとしたら、チャート分析にあたってはTrading viewなどの高機能なものを使用した方がよいです(広告が気にならなければ無料版でもよいです)。Trading viewを使用できなければ、私は勝てないままだったかもしれません。私が思うにTrading viewの利点は以下の通りです。
 - ✓ マーク・文字の書き込みができ、トレードの記録が付けやすい。(エントリー・決済したポイントは記録しておくこと)
 - ✓ 1枚の画面にかなり過去を遡ったローソク足を表示可能である。(要はチャート分析がしやすい)

(2) その他に重要な点

- ・最後に重要な点があります。上述した「**時間や曜日の感覚**」など慣れたトレーダーが無意識になっていることは書物を通じて伝えることができないということです。少しだけ紹介しますと、金曜日の夜のトレード方法(世界中の翌週へポジションを持ち越せないトレーダーの決済)や、日々のニューヨーク時間がはじまる21:30くらい(最も大きな資金が入る時間)は気を付ける必要があります。
- ・また、本解説書で書いた内容は間違っていないと自負しています。ただし、実際にリアルなお金をかけてトレードするとプレッシャーがかかりルール通りにトレードすることが難しくなります(この解説書を書いた私も、お金を扱うプレッシャーからルールを破りたくなることがあります)。かけるロットが大きくなるほどルールを守ること重要です。

おわりに

- ・ここまで読んでくださりありがとうございました。最後に私からのメッセージです。
- ・本解説書では、FXの基本とされる押し目買い・戻り売りについて、私が勝てない期間を含めて3年間で築き上げた手法を説明しました。
- ・FXの基本とされるこの手法で勝てないのは、押し目・戻りがどこまで進むかわからないことと、予想と違った場合にはすぐに損切りするというFXの誤った常識に従うからであることを説明しました。その上で、勝てるように分割かつポジションサイズを工夫したエントリーの方法を解説しました。
- ・おそらく皆さんはこれからこの手法を試してみることになります。ただし、やはり真髄を得るまでは負けることも多くあります。その際に諦めない気持ちが重要になってきます。
- ・FXは勝てるようになるまでに、皆様の貴重なお金・時間を費やすことになります。また、いつ勝てるようになるのかわからない状態が不安にさせます。「このまま続けてもいいのだろうか？」そんな気持ちで、勝てるまで数十回はやめたくなくなります。
- ・でも、FXは勝てるようになるとそれまでに費やした全てを返してくれる世界です。私も3年間で失ったお金(時間だけは戻ってきませんが…)は4か月で取り戻すことができましたし、それ以降は資産が増える一方です。皆さまにもぜひこの経験を味わって頂きたいのです。そのためにはどうしても諦めない気持ちが重要になってきます。不思議なことですが、ずっと負け続けているうちに、勝てる方法がわかってくるのです。そのためには負ける期間と同時に諦めない期間が必要なのです。
- ・本解説書を読んでくださった皆様なら必ず勝てるようになれると心から信じています。